

流域治水プロジェクトの取組事例集 (山王川水系)

(山王川流域治水協議会)

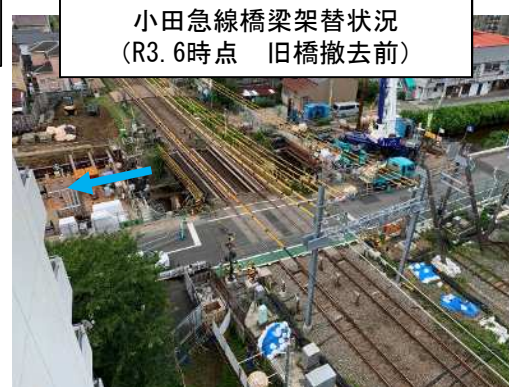
- 山王川水系においては、「山王川水系河川整備計画（令和2年9月）」に基づき、時間雨量約43mmの規模の洪水を安全に流下させるため、河道整備（河道掘削、堤防整備、護岸整備、橋梁架替）を行う。

実施状況

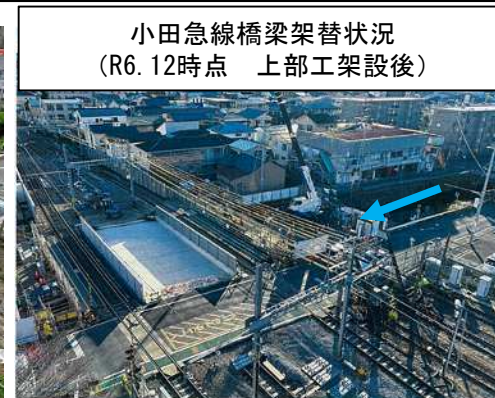
■河道整備の一例



平面図

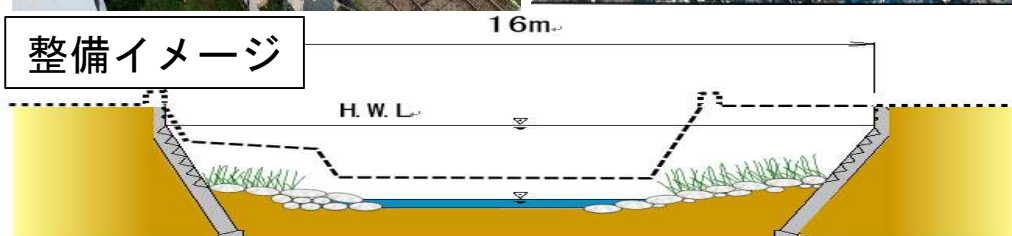


小田急線橋梁架替状況
(R3. 6時点 旧橋撤去前)



小田急線橋梁架替状況
(R6. 12時点 上部工架設後)

整備イメージ



対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
河川改修事業による河道整備	神奈川県			

山王川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
神奈川県

- 森林の維持・造成を通じて、水源かん養機能等の森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるため、必要な箇所について治山施設の設置や森林整備を行う。

実施状況：小田原市久野 治山事業

山腹崩壊状況



荒廃の状況



令和元年10月の台風19号の豪雨により山腹崩壊、土砂流出が発生した。

斜面の安定、溪流の侵食拡大防止のため土留工などの山腹基礎工、谷止工を設置した。

土留工施工済み箇所



位置図



対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
上流域等の 治山対策、 森林整備	神奈川県			

山王川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体等
神奈川県

- 小田原市では、人口減少・超高齢社会を踏まえた持続可能なまちづくりに取り組むため、生活に必要な機能を都市の拠点周辺に誘導するとともに、公共交通ネットワークによりその拠点間を結ぶ、コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造を目指し、平成29年3月に立地適正化計画を策定した。
- 近年、気候変動の影響等により頻発・激甚化する自然災害に対応するため、令和5年3月に災害リスクを勘案した居住誘導区域の変更を行うとともに、防災・減災対策を定める「防災指針」を策定した。

取 組 内 容

- 最新の浸水想定区域を反映した居住誘導区域の設定により、災害リスクの低いエリアへと居住を緩やかに誘導する。

居住誘導区域の設定の考え方・フロー

基本的な考え方に基づく範囲の抽出

- ・ 拠点：都市機能誘導区域と同範囲
- ・ 周辺市街地：拠点及び鉄道駅の徒歩圏
- ・ 基幹公共交通沿線：公共交通の幹線（バス）の路線沿線

土地利用・都市基盤の観点から区域を抽出
※災害リスクの観点を踏まえて設定

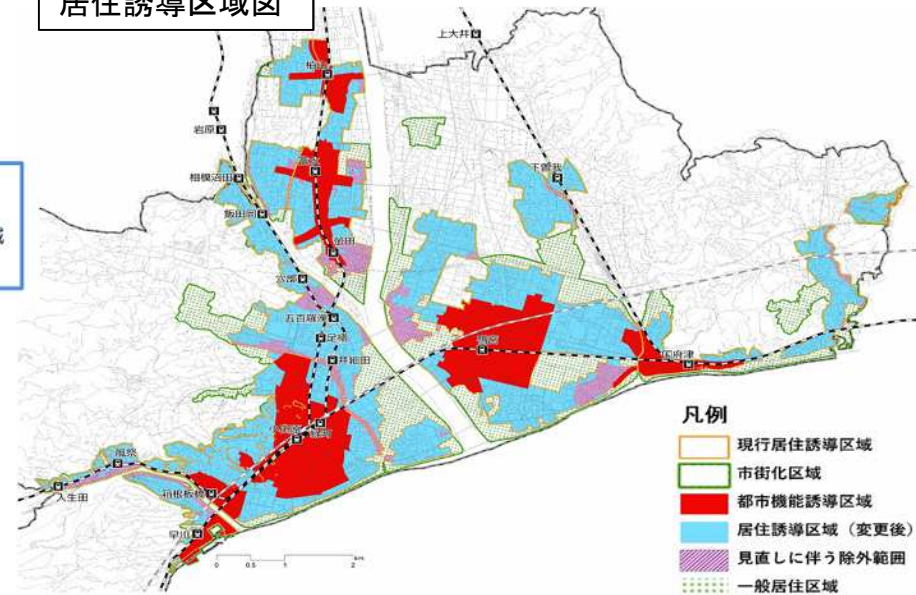
用途地域、地形・地物等を境界として区域を設定

居住誘導区域

居住誘導区域に含めない区域

- ・ 災害時のリスクを考慮し、土砂災害、津波被害、浸水被害などのハザード指定区域や甚大な被害が想定される一定区域を居住誘導区域に含めないものとしている。
- ・ 急傾斜地崩壊危険区域
- ・ 土砂災害特別警戒区域（土石流）
- ・ 洪水浸水想定区域（浸水深3m以上）
- ・ 津波浸水想定区域（浸水深2m以上）

居住誘導区域図



対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
立地適正化計画の推進	小田原市			

山王川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体

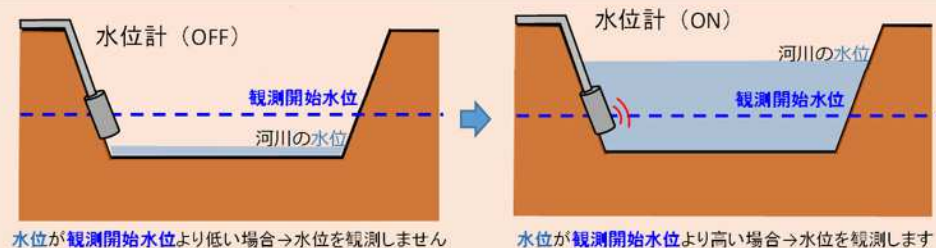
小田原市

- 住民の適切な避難判断のための水位情報提供を目的に、これまで水位計の無かった箇所でも水位把握できるよう、洪水時の水位観測に特化した低コストな水位計を設置することで、出水時の水位観測により避難体制の強化を図る。

取組内容

■危機管理型水位計とは

- ・ 洪水が発生した際に、河川周辺の住民の皆様が避難する際に、役立てていただくために設置する水位計。
- ・ 河川が未整備のため注意を要する箇所や、学校や病院など、重要な施設が周辺にある箇所に設置。



■県ホームページから水位状況を確認することが可能



■危機管理型水位計の設置事例



対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
危機管理型水位計・簡易河川監視カメラの設置	神奈川県			

山王川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
神奈川県

避難体制等の強化 【マイ・タイムラインの取組推進】

被害の軽減、
早期復旧・復興
のための対策

- 小田原市では、市民ひとり一人に、自分の住んでいる地域の地震、津波災害や河川洪水、土砂災害など各種災害の危険性を確認し、いざという時に適切な行動をとれるよう、啓発資料「わが家の避難行動マニュアル」を配布してきた。
- 令和3年5月20日に避難情報（警戒レベル3～5）が変更されたことなどに伴い、改訂版を作成し、災害リスクの情報を地区ごとに一元化した小田原市ハザードマップ（令和4年9月作成）へ掲載している。

取組内容

ハザードマップの一元化

- ・ 小田原市内を8地区に分割し、洪水、土砂、高潮、津波のハザードマップを1面に集約したハザードマップを作成
- ・ 情報面には、「マイ・タイムライン」記入シートもあり、市民それぞれが避難行動を整理できるようにしている。

ハザードマップ

情報面



わが家の避難行動マニュアル



対策内容	実施主体	工程		
		短期	中期	中長期
マイタイムラインの取組推進	小田原市			

山王川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
小田原市

災害発生時、またはその恐れがある場合に、一人ひとりの手元に市からの情報を届けることができるスマートフォン向けアプリ「おだわら防災ナビ」を、2023年2月より提供開始。

取組内容

防災に関する情報など、市からのお知らせを配信。防災情報や広報紙、ごみ情報、くらしの情報などをいつでも見ることができる。避難情報発令時などの緊急時には、画面が緊急モードに切り替わり、プッシュ型で情報をお知らせする。

市ホームページや広報紙への掲載、市内全戸への回覧、ポスティング、市民説明会等により周知を行っている。



対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
避難行動等を実行するための情報提供	小田原市			